

口永良部島における二酸化硫黄放出量の測定

噴火警戒レベルが2にあげられた前日の2008年09月03日(15:34~16:12), COMPUSS を用いた二酸化硫黄放出量の計測を口永良部島で行った。放出量は約25 ton/day であり、前回(2007年8月27日)の二酸化硫黄放出量との間に顕著な違いは見られなかった。

計測方法は車を利用したトラバース法であり、ルートは右図に示す青線である。噴煙は新岳より南~南東方向へと流下していた。

計測は6回行ったが、紫外光強度の低下で測定データ精度が悪化したため、初回の測定値のみを採用している。最終結果としては、W2(308nm)とW4(313nm)の波長帯域で得られたデータを平均した。

得られた二酸化硫黄放出量は、

W2: 15 ton/day

W4: 34 ton/day

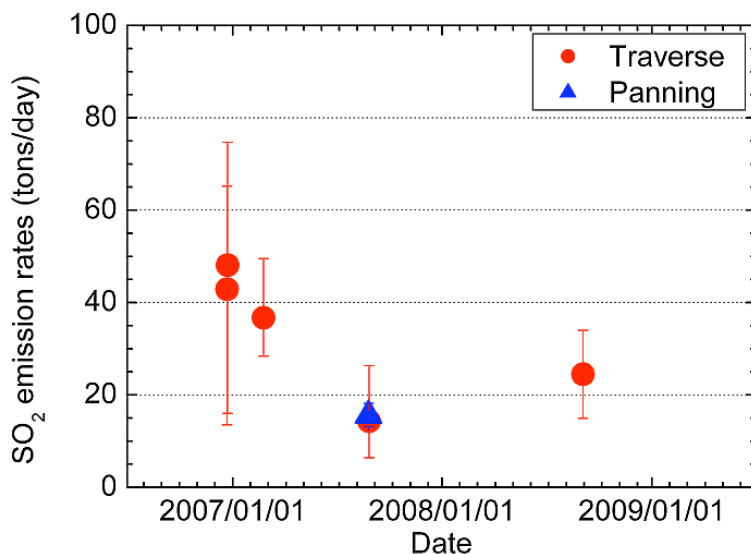
Ave: 25 ton/day

である。



図1 トラバースルートと噴煙流下方向。地形図は国土地理院発行2.5万分の1地形図「口永良部島」を使用。

尚、2006年以前の口永良部島における測定値としては、1977年10月28日にCOSPECを用いた海上トラバースによって、10 ton/day以下であることが報告されているのみである。



産総研

図2 口永良部島(新岳)からの二酸化硫黄放出量

※この測定は京都大学防災研究所附属火山活動研究センターの協力で行われています。